

令和4年度第6回公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和4年11月29日(火)

13時00分～14時15分

場 所：長野県経営者協会 3階会議室

1 開 会

○事務局

定刻を10分少々過ぎましたけれども、ただいまから、「令和4年度第6回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

私は、事務局の高等教育振興課の原山です。よろしくお願いいたします。

本日の出席者の御報告をいたします。本日は、生駒委員、伊藤委員、沼尾委員がウェブ参加でありまして、委員全員の皆様に御出席いただいております。

それでは、以降の議事の進行を山沢委員長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 協議事項

公立大学法人長野県立大学の第一期中期目標の期間の終了時に見込まれる業務実績の評価について

○山沢委員長

委員の皆様、御出席いただきありがとうございます。

本日は、11月1日に開かれました第5回に続きまして、見込評価の3回目ということになります。本年ツーステムの2番目の評価委員会ということで、お疲れのところ誠に申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。

本日は、前回の議論を基に作成いたしました評価結果報告書、資料1でございます。それから評価結果報告書資料編、これは資料2。それから参考意見書、資料3につきまして御確認いただき、御意見を頂戴したいと思います。

なお、評価委員会としてのコメントにつきましては、11月14日までにとということで皆様に意見を照会させていただきました。大変お忙しい中御執筆いただきましてありがとうございます。

それでは、資料1、2、3の議論に入ります前に、やらなければいけないことがあるのですが、皆さんもよく御存じだと思いますけれども、小項目で一つ、評価が確定していない項目がございます。小項目10です。2年次修了時の全学生TOEIC600点以上をめざすという小項目についてです。本日はbかcかの評価を確定したいと考えております。

資料2の7ページ、8ページを見ていただきますと思い出していただけるとかと思っております。7ページで、コメントはもう用意周到に、b評価の場合とc評価の場合でございますけれども、これでまだbかcかは決まっていない。この点に関して、私もいろいろと考えまし

た。大きな論点として、評価としてs、a、b、cの評価というのは決められているわけです。資料1のページ3を見てください。

皆さんよく御存じだと思いますが、資料1のページ3の小項目評価をどうするか、評価の基準がs、a、b、cと書いてありまして、bでもおおむね年度計画の80%の達成率と言っているわけですが、そういう意味では、2年修了時の全学生が平均点600点以上ということに対してその半分も行っていない、55%の学生しか達成していないということで、これは明らかに、b、c以下であると判断ができます。

ただ、学生の英語の力が大変伸びているということもこの4年間の間で分かっております。そういうことを考えると、学生の努力を認めるとbという評価もないことはないかということで、割れているのではないかと思っております。これが私の解釈です。

c評価と判定をなさっている委員の方、bでもいいかとお思いの委員の方、両方いらっしゃるかと思いますが、この辺率直なお話し合いをして決めていきたいと思っております。最後は人数の多いほうということで、割り切って決めるつもりではございます。

私のほうから御意見をお聞きしたいのは、伊藤委員と沼尾委員から、もしよろしければお考えをお聞かせいただくとありがたいです。変えるのが趣旨ではなくて、今お考えのことをお話しいただくとありがたいです。

伊藤委員から、お願いできますか。

○伊藤委員

ありがとうございます。私はこちらはc評価で考えております。今日、最終的にもう一度確認する資料1の5ページに、大項目別の評価も上げなければいけないというところにもこちらの評価はつながることだと思います。

教育については全体的に、1の「教育に関する事項」以外はaにしていますが、人材育成の部分について、特に今取り上げている英語力については、目標に対して、6ページのところの数値でも3年平均で46.4%ということにもなりますので、目標が実際に80%以上達成されているならばb評価になると思いますが、やはり目標に対して到達していないということで、c評価が適当ではないかと思えます。

それは、評価コメントにありますように、実際にこの科目を御担当されている先生方の御努力がなかったということでは決してなく、逆にこの点数を目指すならば、根本的な、日常的にももっと英語で会話を行うとか、接するような、何らかの違った形での工夫改善が必要ではないかと思えますので、そういう意味からも、中期計画そのものが順調に推移しているという総合評価にもつながりかねないので、c評価が適当と考えます。以上です。

○山沢委員長

ありがとうございます。ただいまのお考え、大変よく分かりました。教育全体のことも考え、さらに中期計画そのものの進み具合という観点からも、やはり問題をきちんと指摘して、きちんとした対応を迫るというのは当然であろうというお考えだと思います。

沼尾委員、御意見をお願いいたします。

○沼尾委員

ありがとうございます。私は前回bとc、どちらもあるのではないかと申し上げたと思うのですが、確かにそれぞれの先生方は大変御尽力されてここまで成果を上げています。そこに着目して大学側はb評価をつけていると思いますので、それをそのまま尊重すればbということだし、けれども当然課題はあるわけだから頑張ってもらいたいという書き方になるのかと思っています。

他方で、今、伊藤委員がおっしゃられたとおり、客観的な数値だけを取れば、やはりこれはどうしてもc評価ということになると。けれども、そのc評価というのはそれが駄目だというジャッジメントをしているわけではなくて、客観的な数値に基づく事後評価なんだということを明記した上で、そのお取組については大変評価をしつつも、今後のさらに伸びしろというところを期待して、ぜひ頑張ってもらいたいという書き方にcとするやり方もあるのではないかと考えています。

なので、その受け止める側の大学がそれをどう捉えるのかというところで、こんなに頑張っているのに何でcなんだみたいになってしまうと、そこはちょっともったいないなという感じもしていて、なのでもし本当に客観的な基準に基づいてc評価にするのであれば、やはりそこを丁寧に記載して、ぜひ頑張ってもらいたいと書いていくというやり方もあるのではないかと考えています。

なので、本当にどちらのやり方もあるなということで、中途半端なコメントになってしまっても申し訳ないのですが、その辺りの気持ちのところはたぶん先生方とそんなに違いはないかと思っていますので、どちらになっても私としては構わないです。

○山沢委員長

ありがとうございます。私もほぼ同じ考えです。

山浦委員、もしよろしければ。

○山浦委員

私は多少妥協したところがあるんですが、基本的にはcじゃないかと思っております。ただ、7ページにコメントがあるのですが、資料2のTOEIC-IPというのは何ですか。TOEICとは違いますか。

○山沢委員長

TOEICは調べたら2種類あるんです。

○事務局

TOEIC-IPは団体受験のことです。

○山浦委員

今日の新聞に、グローバル人材というのが出ていて、そこに日本のTOEICの平均は574点と出ていました。たぶんTOEICを受けた人の全員のだと思いますが、この496点というのは、全国平均で574点とどういう関係になっているのか。単純にうちも496点だから頑張っていると言いたいためにただ出しただけだと私は思うんですけども、その辺がよく分か

らない。全国平均574点で、グローバルマネジメント学科と名前をやっている以上は、400点台ではいくらなんでも見劣りし過ぎて、やはりもう少し頑張ってもらいたいということと、年度評価の1回目で申し上げたんですが、沼尾委員もここに書かれていて、例えば寮で英語を使ったらどうかと話をしているんですが、25人学級でやっているということを行っているだけで、御努力はされているかもしれませんが、あまり教育を変える努力をされたことがあまり見えないので、やはりここはcではないかと思います。

○山沢委員長

これは県立大学の英語教育を担当する教員の皆さんにさらに頑張ってくださいというメッセージ、今まで頑張られて随分点数を上げられたと。しかし立派な目標を掲げているわけだから、さらに頑張ってくださいというふうなイメージで、cという考えでいかがでしょうか。

実際に、今言ったのはどこに書くのだということになるのですが、コメントの資料2の7ページにb場合とc場合のコメントが書いてありますが、bのコメントももちろんcに通用するんですね。ある意味ではbの評価のコメントのほうがいいのかも说不定いし、この辺は少し事務的に整理して、今の議論を踏まえた上での評価委員会のコメントというのをきちんと出して、皆さんにチェックをしてもらいながら、気持ちとしては、先ほど申し上げたように、学生も頑張っているし、教員も頑張っていると。しかし非常にいい目標を立てたのだから、さらにその目標に向かって教員も学生も頑張ろうねというふうなイメージにしたいと思います。それでいかがでございましょうか。よろしいですか。では、この評価はcという評価にさせていただきます。

これで、小項目が全てそろいましたので、先ほど御指摘の場所等、資料1の空いているところ、資料1の5ページは埋まって、全部評価が出るようになります。ありがとうございます。

では、次の話に入ります。次の話は、皆さんにお送りしている本日の資料1、2、3、これは実は法人にも示してございます。評価の実施要項の3で、評価結果の決定手順というのがございまして、そこに評価書の原案に対する意見の申し出というのを法人に与えてございます。はっきり言うと、この原案をお示しして、法人、大学側として意見を述べなさいということをしてございます。

ここで私が申し上げたいのは、法人から評価委員会あての意見というのはございませんでした。ですから、分かったということで、今年は2回目ですし、4年分のですから。これは私どもにとっては、大学もかなりいろいろと考えて、意見を一にするとこが増えてきたかなというイメージです。そういうことでちょっと安心してございます。

そういたしますと、この後は資料1、2、3について御意見を賜って、確定をしていきたいということになるわけです。もちろん最終的には皆さんに原稿をきちんとお送りした上で、最後に目を通していただくチャンスはございますけれども、この後、議論の点がございましたら、皆さんからお出しいただきたいと思います。

さらにその先の話をしておきますと、知事への報告を私がすることになっております。これは、資料1だけでございます。さらに、法人に対して説明、実は評価委員会ではこういうふうなことを言いたいのですよという説明をする機会がございます。これはぜひ説明

したいと思います。本当は皆さんにも御参加いただきたいのですが、いろいろお忙しいということもございますので、皆さんを代表して私が大学に行きまして、参考意見書の内容も含めて、この評価委員会での考え方、意見をきちんと申し上げたいと思っております。ここがさらに先の予定の話をしておきます。

話が本日の委員会の話に続いておりますが、資料1、2、3について、委員の皆様から御意見を賜るといふ論議に入りたいと思います。いかがでしょうか。まとめてというより、沼尾委員、まだ大丈夫ですか。

○沼尾委員

大丈夫です。基本的にはこの間、提出した意見についてはおおむね反映していただいておりますので、私としては大丈夫です。

○山沢委員長

では、適宜お手を挙げて、まだその議論に行っていないところでも、御意見がございましたらどんどん遠慮なくおっしゃってください。

一応私としては、1、2、3で何かありますかというより、一つずつ聞いたほうがいいのかと思いますので、まず資料1です。資料1をパッと御覧いただき、最大のポイントは先ほど申し上げましたように、7ページ、8ページにコメントが二つついています。このコメントについてはc評価で決まりましたので、さらに本日のこの議論の皆さんのお気持ちをきちんと表しているようなコメントに、さらに事務局と相談して書き加えまして、皆さんにお送り申し上げてチェックをいただくというふうにしたいと思います。いかがでしょうか。これを評価委員会のコメントという形であります。

何か資料1についてお気づきの点、あるいはここはこうしたほうがいいんじゃないかという意見がございましたら、いかがでございましょう。

○伊藤委員

確認させてください。資料1の5ページの右下の最下段のコメントは、先ほどの評価を踏まえて書き直されるということでもよろしいでしょうか。「学生の英語力について、これまでの達成上では目標達成は困難であると考えられることから、さらなる取組が必要である」というコメントは。

○山沢委員長

私としては、頑張ってきて上がっているのは認めるけれどもというのは、そういう観点は言葉として入れたいと考えておりますけれども、いかがでしょうか。

○伊藤委員

「さらなる」というより「抜本的な」というふうに、もう少し今の延長ではない取組に転換する必要があるのではないかというニュアンスを入れていただければと思います。

○山沢委員長

分かりました。ありがとうございます。

その後ろのほうに行きまして、大体いいこと、褒める方向で書いています。7ページから8ページにかけての「研究に関する事項」でb評価のところですが、「課題となる点や今後の展開に期待する点」等もきちんと書かせていただいております。

○伊藤委員

1点よろしいでしょうか。「研究に関する事項」の8ページの「課題となる点や……」ということで、左の一番上の書き方で、「科研費の申請・確保の努力をすることが大事なことである」ということが最初に入っているのですが、せっかく中期目標の評価ということになると思うので、2段目の後ろのほうから「大学としてどのような研究を期待するかということも重要な課題である」と書いてあるのですが、どちらかという、科研費の獲得が何のために重要なのかというのを先に持ってきたほうがいいのかと思うので、書き方としては、「大学としてどのような研究を期待するかということは重要な課題である。そのため科研費の申請確保の努力をすることは大学教員にとってとても大切なことである」というふうに、目的と手段を入れ替えていただいたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○山沢委員長

おっしゃるとおりです。それがいいと思います。ここは入れ替えます。順番を伊藤委員御指摘のとおりにしたいと思います。ありがとうございます。よろしいですか。

○沼尾委員

すみません、これは根本的なことなので駄目なら駄目でいいんですけども、この立て付け自体がそれぞれの項目別に、「評価できる点」と「課題となる点や今後の展開に期待する点」ということで入っているのですが、例えば、これ「取組や成果について評価できる点」と、要するにやってきていることに対してこういうところは優れていると評価しますという雰囲気をもう少し醸し出せないだろうかという感じがしてしまっていて、「評価できる点」というのは、すごく上から目線みたいで表現がずっと気になっていました。ただ、「取組や成果について評価できる点」と書いても同じなのか、どう変えたら印象がいいんだろうとずっと気になっていたのですが。

○山沢委員長

上から目線でないような言い回しですね。

○沼尾委員

要するに、本当に客観的にエバリュエートしているということですが、やはりこの間のやり取りで、大学側としても、何でこんなことまで言われるんだみたいな話になってしまうと非常にもったいないなど。でも、これだけの取組や成果はきちんとやってこられたんですよねというところを、むしろ質的なものについて改めて文字にしていると思うんです

けれども、それについて大学側が受け取った側に、ちゃんとは自分たちがやってきたことを受け止めてもらえるんだねという書き方にするにはどうしたらいいんだろうというのをずっと考えていて、なかなかいい表現が思いつかないのですけれども。冗長になりますか。

○山沢委員長

うまい言葉があるといいんですけども。要するに、頑張っているねと褒めたいんですよ。

○沼尾委員

そうなんです。評価できる点って何か、ここはやったんじゃないかという、うまく言えないのですけれども。

○山沢委員長

高く評価するところ、褒めるわけですよ。頑張ったねと、そういうことですよ。

○沼尾委員

私も「高く評価できる点」という書き方もありかと思ったのですが、中を見ると、「高く評価する」というのと「評価する」の2種類あって、どうしたらいいかなと思いながら。

でも、ある意味そこは特別にあえて特記しているという意味で「高く評価できる点」とか、「高く評価する点」と書いてもいいのかもしれないのですけれども、そこをもう少しポジティブなニュアンスが出せないかなというのは、少し気になっていたんですけども、もし難しいようでしたら。今まではこれで「評価できる点」ということで出しているのですが、これはこれでニュートラルにというそういう判断もあると思うのですが、恐らく大学があまりニュートラルに受け取っていないのかなというところが少し気になったので。

○山沢委員長

沼尾先生、「課題」という言葉がありますね。悪いほうを「課題」と言っているわけですが、「課題」に反する言葉、反対の言葉は何でしょうね。

○沼尾委員

「成果」ですかね。ただ、これは成果を評価しているところもあるのですが、そのプロセスを評価しているものもあるので、そこが難しいなと。例えば「成果やその取組、あるいはプロセスについて評価できる点」みたいな。

○山沢委員長

その辺、何か入るといいですね。

○沼尾委員

そこを受け止めたということが伝わるのがすごく大切かなと思いました。細かいこと

で恐縮ですが。

○山沢委員長

頭をひねってみます。

○沼尾委員

ありがとうございます。

○山沢委員長

ほかはございませんか。よろしいですか。

では、資料2です。これは長いものですが、御意見ございましたら。いかがでしょうか。随分議論してまいりましたのでいいかなと思います。

先ほど何回も、最初の議論で申し上げましたけれども、7ページのところは、本日の評価委員会の雰囲気がいちと分かるようなコメントをつけたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

一つ御了解をいただかないといけないのは、8ページを御覧ください。ここに表が入っています。分かりやすく見せるために追加しています。もう一つ、25ページ、科研費の補助金の申請率を出して、多い・少ないという議論がしやすいように、きちんと分かるように、年度経過が分かるように、ここも実績を示しています。こういう表を追加しているところは、私は分かりやすいからいいのではないかと思うのですが、この追加をぜひお認めいただきたいということでございます。

○山浦委員

分かりやすく結構じゃないですか。読んでいても全然分からないから、表にしたほうがいいですね。

○山沢委員長

文章を読んでいるだけでは分かりにくいところを、このように表にすると明確にきちんと出るということでお認めいただきたいということでございます。よろしいですね。

○山浦委員

「一定の成果が上がっている」ということはそこらじゅうで言うけれども、どういう意味ですかね、「一定の成果を上げた」とか。うちも使いますが、「一定の成果を上げた」というのは言い訳の言葉と私は捉えています。ほとんど上がらなかったけれども、「一定の成果を上げた」と結構あって気になりますね。例えば、7ページで「一定の成果が上がっていることを高く評価」というのは矛盾ではないかと思っているのですが。「高く評価」というのは、十二分の成果を上げているなら分かりますよ。「一定の成果」というのは、一般的によく言う言葉だけれども、たぶん十分満足する成果を上げたということではないですね。

○山沢委員長

山浦委員から、資料2の7ページの評価委員会のコメントのところ、b評価のところ、「一定の評価を上げている」の「一定の評価」とは何だということ、これは使い方によってはまあまあ成果だと使う場合もあるので、ここはきちんと書くようにという御指摘でございます。そこは書かせていただきます。「一定」なんていうのはいけません、そのとおりでございます。

各学年、年度によって英語力が上がっているところがあったと思いますので、「一定」ということではなく、そこをきちんと書きます。8ページの実績の表を見ると、「一定」ではなくて、何点上がっているということが分かりますので、そういう書き方をしたいと思います。山浦委員、ありがとうございます。

ほかにもございますでしょうか。

○伊藤委員

1点だけお願いします。19ページのコメントですが、就職率100%のところのコメントで「第1期生の就職希望者の就職率100%を達成した点と」と、100%達成したという点を評価しているようにこれだと読めてしまうので、できればその前に、法人のほうのコメントに「4年間の体系的なキャリア形成支援、就職支援を行い、その結果第1期生の就職希望者の就職率100%を達成した」というふうにプロセスを入れて結果も評価するみたいな、先ほど沼尾先生がおっしゃったように、この書き方もそれを入れていただいたほうが、100%達成したことを評価したということではないと思うのでお願いいたします。

○山沢委員長

ありがとうございます。そのようにさせていただきます。キャリア教育4年間の成果がここに出ているのだと思います。全くそのとおりでございます。

ほかはよろしいですか。では、次に資料3です。参考意見書です。

○伊藤委員

1点いいでしょうか。資料3の2ページ、小項目番号36の「長野県に関わる資料収集・充実」のところですが、追記していただければと思うのですが、「地域資料の収集に関する方針は策定されているが、所属している地域資料や……」と続いています。前もこういうコメントを出したときに、県立大学の役割なのかみたいな、そこはほかのシステムに任せてもいいんじゃないかというような大学側のコメントがあったような気がするのですが、「地域資料の収集に関する方針は策定しているが」の後に、「長野県のシンクタンクとして期待されていることから、所蔵している地域資料や文献を他の図書館に周知するとともに……」と、何を期待されているからこういうことをお願いしたいのかということを追記していただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○山沢委員長

結構だと思います。事務方、OKですか。そのように修正させていただきます。ありがとうございます。全くそうですね。

あと、私の勘違いで、沼尾委員からきちんと指摘されました2ページの7、私もつい理系の出身なもので、大学院生の研究能力、ありがとうございます。どこかでちゃんと論文ぐらい書かせないと駄目ではないかと勝手なことを言って申し訳ございません。きちんとここに書いてございますように、「外部専門家を招いた研究発表会を開催するなど、研究生かを学外に発表する機会を設ける」と、そのように確認しました。ありがとうございます。大変勉強になりました。

○沼尾委員

一つよろしいですか。私、これは前回聞いていなかったのかもしれないのですが、3ページ目の一番上の地域貢献のSDGsのところ、県内高校生を対象とした県立大学主催の優秀事例の表彰という話があって、これは大学側から前の評価のときに、何で高校のを大学でやらなきゃいけないのかみたいなコメントが大学側から来ていたような記憶があって、何で高校ということをやっているのか、もしこの事例を入れるのであれば、どういう議論があってこの高校の話が出たのか私は理解していませんけれども、受験生を呼び込むみたいな話もあったんですか。

○山沢委員長

これはたぶん私が、高校生を呼んでいろいろやっているのだったら、県立大学に来るであろう学生に向けてきちんとやっている学生を大学が評価するよという機会を大学が持つと、学生を集めるにも有利じゃないかということをやったんです。それをそのまま事務局が書いてしまったので、おっしゃられることは、大学の中だけでSDGsをやっていくというのを出すだけではなくて、大学が地域の教育機関として、他の教育機関、地域にある、長野県内にある他の教育機関、高校や大学に向かってSDGsを一生懸命やってみようというのを言っていく、そういうチャンスをつくってほしいということだけです。そういうニュアンスの文章に直したいと思いますので、よろしいですか。

これは文句を言ってこなかったのですが、何で高校生にそんなことをやるのかと言うかもしれませんので、そこは直させていただきます。

○沼尾委員

よろしくをお願いします。

○山沢委員長

ほかはございますか。

少しお待ちください。生駒委員、何か。

○事務局

生駒委員からは、資料3の参考意見書、小項目10の「全学生TOEIC600点以上」のところで、評価結果原案の「他大学の事例を参考に、卒業・進級要件や単位認定にTOEICの点数を活用されてはどうか」に対して、生駒委員の懸念としては、大学は学問の府であり、外部資格試験の予備校ではない等の反発がなければいいですが、その辺はどうなのかとい

う御意見です。

それにつきまして、大学からは特に反論はございませんで、ほかの委員におかれまして、「大学は学問の府であり、外部資格試験の予備校ではない」というような懸念はお持ちかどうかという生駒委員からの御意見です。

○山沢委員長

生駒委員から、皆さんのお考えを聞きたいということで、TOEICで点数を決めて勉強させて、資格みたいな形になるわけですが、大学として、こういう資格試験を取るためだけにこういう中期目標をつくっていいのかということを考えている委員はいらっしゃるのだろうかということです。

私も、TOEICの現在の県立大学でやっているやり方ぐらいですと、この資格試験に特に大学が協力して、それを盛り上げるというような雰囲気ではないと考えております。ほかの国立・公立大学でも、このような方法で学生の英語力を上げようという試みはあるわけです。ただ、卒業要件に入れるとかそういうふうになってきますと、さらに細かい大学なりの議論が必要になってくると思います。

現在はそうではなくて、どこの大学もやっているレベルで、それで学生の英語力が全体レベルでどういうところにあるのかが分かる、知らせるという意味では非常に教育的な効果も高いと考えていいのではないかと私は思っています、TOEIC600点、700点云々というのは、TOEICに味方してということはないと考えております。

皆さん、どのようなお考えかということですが、私とあまり変わらないのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

○沼尾委員

基本的には今の委員長のお考えでいいと思います。それだけが絶対的な基準ということではないですが、一つの指標にはなっていると。ただこれまで申し上げているとおり、それがTOEICがいいのか、TOEFLがいいのか、IELTSがいいのか、そこはやはり検討する必要はあると思うのですが、それが絶対的な卒業要件になっているということではないので、それはそれとして、一つの指標としてはあり得るのかというのが私の考えです。

○山沢委員長

ありがとうございます。

○山浦委員

小項目10のところのTOEIC600点の下段のところに「他大学の事例を参考に、卒業・進級要件や単位認定……」と書いてあるのは、今の皆さんの御意見を聞いていると取るような部分ですね。極端なことを言えば、取らなきゃ落第させる、卒業させないみたいなムードですね。そういうことも検討せよと言っているわけですね。

○事務局

他大学ですと選択科目だったりしますので、落としてもほかの科目で取ればいいのです

けれども、進級とか卒業とか……。

○山浦委員

この書き方は、そういうふうには取れないですね、どう見ても。

○山沢委員長

ここは誤解を招きそうなので、この下の文章は省きたいと。

○山浦委員

これは心構えの問題で、やるというなら書いてもいいですよ。グローバルマネジメント学科と言っているのだから、600点や700点はもう当然だと思うんですね。900点以上取るというなら別ですけれども。

今日の日経新聞で、日本はグローバル人間が少ないから経済成長は遅れたと書いてありました。600点、700点というのはたぶん英会話がろくにできないレベルですね。会話はできません。なので、グローバルマネジメント学科という名前からすれば、600点は700点は一般常識という世界のレベルだと思います。これは資格試験だとかそういう世界にはならないと私は思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。生駒委員からもう一つ御質問がございます。

○事務局

資料1の10ページの11、「評価できる点」の「国公立大学として、初めて再生可能エネルギー100%調達を達成したことを高く評価する」というところについて、生駒委員から、エプソンとかほかの企業ですと、企業努力で高い電気を買っているというのものもあるけれども、大学としては購入先を変えただけで、増加費用も県からの交付金があるので、これを評価するのであれば、カリキュラムに入れるとか、ペーパーレスや節電、いろいろな活動といったことで、社会課題の解決に向けてさらなる活動や取組を推進みたいなことにしてはどうかという御意見がありました。契約先を変えただけじゃないかという。

○山沢委員長

ただいまの生駒委員の意見の御説明を事務局がされましたように、資料1の10ページの11番「その他業務運営に関する事項」の「評価できる点」としてえらく褒めているわけです。でも、これは単に中部電力から電力の購入先を変えただけじゃないかということで、それも大切だけれども、そうではなくて、さらに再生可能エネルギーの利用ということによって社会課題の解決に向けていろいろなことができるわけですが、それをこれからも努力していくのだということを書いておくべきだということでございます。全くそのとおりでと思います。その辺、少し文章を付け加えたいと思います。

評価できる点として、高く評価するというのは置いておきますが、100%評価すると。さらにこの再生可能エネルギーの利用による社会課題の解決、さらなる分野の努力もしてほ

しいということを書くと。具体的にさらなる分野の努力とはどういうことかとなると、私は、先ほど少し議論しましたように、高校生がSDGsの運動をやっているのを表彰するとか、高校と大学が一緒になってやるとか、そういうことがいろいろあると思いますけれども、そういうことをおやりになったらどうだということをイメージした言葉にしたいと思います。よろしいでしょうか。

○生駒委員

遅ればせながら参加します。よろしく申し上げます。山沢委員長の発言を聞いておりました。

○山沢委員長

ただいま私が説明したような、評価できる点のこの文章に、生駒委員が御指摘の社会課題のさらなる解決に向けての努力もすべきだと。幾つか例を挙げながら、そういう努力をなささいという言葉をつけ加えたいと思いますが、いかがでしょうか。

○生駒委員

結構だと思いますが、私の問題意識は、高いエネルギーコストを企業努力とか、何か技術的に貢献したとか何かほかにあったのかとお尋ねしたのですが、特にそういうことも聞けなかったもので、それなら肯定的に前向きに、SDGsの取組をさらに進めてほしいと。水力、電力に替えただけではなくて、という思いからつけ加えるようお願いいたしました。

○山沢委員長

ありがとうございます。これで、資料の1、2、3と一応目を通しましたけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで本日の議事は一応用意したものは終了いたしました。本当に、何回も何回もお集まりいただき、さらに今日はかなり一遍に議論を進めてしまいました。進行に御協力をいただきましてありがとうございます。

事務局から、今後の予定を御説明いたします。よろしく申し上げます。

○事務局

本日いただきました御意見を基に、最終版の報告書を作成しまして、委員の皆様へ再度メールにてお諮りしました後に、報告内容を確定させ、知事と県議会へ報告いたします。

2月議会への提出後、先ほど山沢委員長からお話ございましたように、法人へも評価結果報告書、資料編、参考意見書を委員長から渡していただいて、委員の皆様からいただいた御意見のニュアンスまで伝わるように懇談を行う予定にしております。

なお、今後は今回までの評価委員会の議事録の校正・確認を事務局で行った後に、委員の皆様へ御確認いただきまして、県のホームページの中でも掲載してまいります。誠に申し訳ございませんけれども、御発言の確認に御協力を賜りますようお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

○山沢委員長

本当に今年は、冒頭申し上げましたけれども、2回もお集まりいただきましてありがとうございます。

おかげさまで、これで次期の評価、来年度の評価に向けて進めるというふうになると思います。さらに今回のこの見込評価がこれで終わりましたので、あと2年の中期目標計画期間の中で、さらに大学側として成果を求めていただけるような形ができてくるのかなど。さらにその先には、次の中期目標・中期計画がございますので、そこにしっかりとした計画を立てていただきたいと。できましたら、評価のしやすい計画を立てていただけるとありがたいのですが、そんなことはここだけの話でございますが、ぜひ県立大学が大きく伸びていけるを、私どもは応援していきたいという皆さんのお気持ちが伝わっていくのではないかと思います。

本日はどうもありがとうございます。

○事務局

山沢委員長、ありがとうございました。

続きまして、当部の山田部長から御挨拶をお願いしたいと思います。

○山田県民文化部長

山田でございます。ありがとうございます。今日はバタバタしていて、あまり議論をお聞きすることができなかったのですが、7月から年度評価に併せて今回見込評価ということで、4か月間の長期間にわたりまして、山沢委員長はじめ、委員の皆様には本当にお忙しい中、集中的に御審議をいただき、また評価結果を今日取りまとめていただいたということでございまして誠にありがとうございます。

評価結果報告書は来年になるかと思いますが、年明け、また山沢委員長から知事へ提出していただくということでございます。県といたしましては、今後とも、先ほど委員長から話しもありましたように、県立大学が次期に向けて持続的な発展をしていただけるよう、今回の評価結果も参考にさせていただきながら、新しい中期目標、それから大学での中期計画の検討・策定に取り組むということを大学と共にやっていきたいと思っておりますので、引き続き、どうかよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございます。

○山沢委員長

ありがとうございます。何とぞよろしく願い申し上げます。

3 閉 会

○事務局

それでは、以上をもちまして、「令和4年度第6回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を終了いたします。本日はありがとうございます。お疲れさまでした。

○一同
ありがとうございました。
(了)